

国際友好 フェア 2024



花と緑の祭典
くす玉割り

CONTENTS

- ① イベント
- ② コラム
- ③ ご案内

絶好のイベント日和の快晴の中、恒例の“国際友好フェア2024”が5月3日～4日に市民の森・見沼グリーンセンター（面積8000㎡の芝生公園）で開催し、大盛況でした。“春の園芸まつり”と“シビックグリーンさいたま”も「花と緑の祭典2024」として同時に行われました。

この**国際友好フェア、注目のステージでは各実行委員長から開会式挨拶の後、人気イベントの世界の民族舞踊・音楽・歌唱が披露され、外国人を含む多くの市民が、満員の椅子席の周りにも集まり拍手喝采でした。

広報・ぶらら・姉妹友好都市の紹介・防災などのIEC事業に加え6団体参加の「見て体験するブース」では、親子連れの子も達が防災体験、ハンドペイント・うちわで国際交流するなどのスタンプラリーに参加して楽しんでいました。更に36の団体が出展の「世界のハンディクラフトブース」・「世界のグルメブース」ではそれぞれ各国の物品販売、各国の飲み物やその国ならではの料理を堪能した人で大賑わいでした。目の前で料理された'異国の味'を、ここで食べられることがうれしいと来場者の声が聞かれました。

来場者の中には、毎年来るのを楽しみにしている人や穏やかな天気なので初めて来た人など様々でした。一昨年は、コロナ禍の影響で開催自粛したこのフェアですが、今回大型連休の真ん中の日程であるだけに逆に心配した来場者数でしたが、好天に後押しされ、2日間で昨年並みの約5万人をお迎えしました。

実行委員会の関係者や多数参加されたボランティアの方々の頑張りとお各参加団体の協力のもと無事に終了し、大成功のフェアとなりました。

**国際友好フェアの歴史 旧大宮市の教育委員会が中心となって平成5年に始め、3市合併後、(財)さいたま市国際交流協会がこれを引き継ぎ今に至る、32年目。さいたま観光国際協会(STIB)になってからは13年目。



ステージ



緊急救護の
仕方



岩槻
盛り上げ隊



ハンド
ペイント



飲食販売
ブース

国際友好



はじめましての会

ともに楽しく 第一歩



紙飛行機を的に飛ばす競争。にわかチームながら盛り上がります

「はじめまして!」と始まるこの会は、来日まもない外国人*と、さいたま市民との交流会です。年に2回、国際交流センター(IEC)が開催しています。

4月20日土曜日は、応募した外国人と一般市民、市民ボランティアの41人が集まりました。片言同士ながら、ゲームや折り紙体験などを一緒にするうちに親睦は深まり、最後は笑顔でしめくりました。さいたまにともに暮らす市民として、これからよろしく願います。次回はあなたも参加してみませんか。

*今回参加の皆さんの出身国:

ベトナム、中国、インド、インドネシア、オランダ、ロシア

外国人の声



- ロシアから来て日本の夏は暑いと感じています
- 勉強してエンジニアになります
- 語学研修中です。ピアニストになりたいと思っています
- 紙飛行機競争や折り紙が楽しかった
- 日本語を習得し、帰って日本関係の職業に就きたいです

日本人の声



- 大学生で、外国人との交流に興味があつての参加です
- IECにふらっと立ち寄ってこの会を知りました
- 親戚に外国の人がいるので応援したいと思っています
- 外国の人が一生懸命に日本語を話していて感動しました。私もがんばろう



折り紙体験。大学生同士で教え教わるひとこま



次回は、今年10月中旬の予定
浦和コミュニティーセンターにて
詳しくは国際交流センターのサイトを
チェックしてください

二講座

✈️>>>「イスラムを知ろう 住んでみて見えた真実の姿」

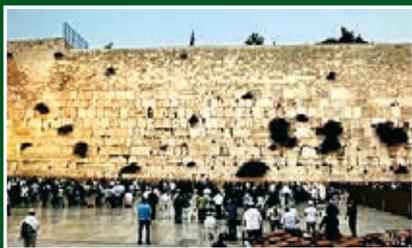
2回連続シリーズの2回目

3月16日(土) ぷらっとサロンで開催しました。講師は第1回目と同じ金子貴一氏です。金子氏はエジプトのカイロアメリカン大学に学び、その後も現地にとどまり、日本のテレビ局支局員や陸上自衛隊イラク派遣部隊通訳などに従事し、現在もイスラム世界との交流を続けて活動しています。

「イスラム世界のことは日本人にとってそれほど身近ではない。自分が伝えていくことで双方がよりよく理解し合えば良いという思いで活動している。それがお世話になったイスラム世界への恩返し」との熱い思いを話されました。



お世話になった▲イスラムの方々



◀嘆きの壁



講座風景

「近年、イスラム教徒の訪日は増加傾向にあります。どのようにすればイスラム教徒と日本人が仲良くできるか」というお話の中で印象的だったことは、お互いを「尊重する」ということでした。当たり前のことのようにですが、「イスラム社会の人々との交流ではとても重要なこと。人は主義主張の異なる人に会おうと、つい議論を始めたいくなる場合もある。イスラム教徒と対する時にはそれは控えた方が良い」ということでした。

満席の聴衆からあふれる拍手で幕を閉じた講演会でした。

MY ボランティア STORIES



国際友好フェア
タジキスタンの留学生と
(右：山東さん)

今回は、山東 祥弘さんにお話を伺いました。

山東さんは、2010年から国際交流センターでボランティア活動されており、異文化交流事業委員会・副委員長を務められるとともに、姉妹都市分科会で活躍されました。また、簡易生活相談・ミニ講座・広報等の事業委員として、国際交流センターの事業全般にわたって活動されています。

ボランティアの考え方は？

ボランティアには、三つのキーワードがあります。

- 自発性、● 公益性、● 無報酬

具体的には、「道路の吹き溜まりにゴミが溜まっています。そこを掃除して安全に通行できるようにする」という小さなことの積み重ねだと思っています。

ボランティアを始められたキッカケは？

私がこの国際交流センターでボランティアを始めたのは、「恩返しをしたい」ということです。約14年間海外で仕事をしていました。海外では言葉の違いをはじめ、文化・慣習が

違います。心細い気持ちになりましたが、周りの方々が、仕事面は勿論、生活面も含めて助けてくれました。それと同じように、不安を感じたり、心細い思いをされている外国人の方々のお役に立てるように活動しています。

国際交流センターでボランティア活動をしたいと思っている方々へのアドバイスを

国際交流センターの事務局の支援は充実していますし、先

輩ボランティアの方々には優しく活動の仕方などを教えてくれます。安心してボランティア活動に参加してください。



ミニ講座の講師たちとの記念写真



国際友好フェア トーゴ共和国の人たちと

5月14日から6月11日まで毎週火曜日5回シリーズのスペイン語初級を学ぶ講座です。受講者は12名で、昨年好評を博した入門編の受講者や興味のある方々が応募されました。講師はスペイン・アンダルシア地方マラガ出身のセルヒオ・マテオ・アラングさんでピカソと同郷だそうです。セルヒオさんはさいたま市在住の在日2年目、埼玉大学大学院博士課程で学びながら、「外国人による日本語スピーチ大会」の司会をされるなど国際交流センター（IEC）の活動にもご協力いただいています。



▲自己紹介するセルヒオ講師



▲講師の説明に聞き入る受講者



スペイン語

初級

会話講座



スペイン語は世界21ヶ国で5億人を超える人々に使われている国連公用語のひとつです。本講座では言葉や文法だけでなくスペイン料理と食文化の紹介などもあり、リラックスして楽しみながら学ぶことを主眼としています。初回の講座では自己紹介から始まり、最上級・買い物・質問（5W 1H）の基本表現を学習しました。練習問題に苦勞する場面もありましたが、終始笑顔で講師のユーモアを交えた親身な指導や受講者同士で教え合い、休憩時間や終了後も質問が出るなど、全員真剣に取り組む姿が印象的でした。

「かつて勉強したスペイン語を学び直したい」「食べ物も人柄もよくスペインが大好き」「スペインとサッカーが大好き」などの声が聞かれ、受講者のスペインへの熱い想いが伝わる楽しい講座でした。



講師が受講者を見て回る様子▲

大好き!

SAITAMA さいたま



マリ・ガポリオさん
(フランス)

STIBが主催する“外国人による日本語スピーチ大会”の審査や、国際交流センターの“ボランティア養成講座”で活動しているマリ・ガポリオさんは、フランス南西部のボルドーから約70キロにあるバイーニュ (Baignes) という小さな町の出身です。

国費留学生として来日、東北大学大学院で戦後の日本農村社会の変容について、特に山形県庄内地方を中心に研究しました。その後、浦和明の星女子短期大学仏語科専任講師、慶應義塾大学経済学部教授として活躍、現在は名誉教授です。6年前からは「日本で最も美しい村」連合の理事・資格委員会委員も担当しています。



ボランティア養成講座のみなさんと

は「日本で最も美しい村」連合の理事・資格委員会委員も担当しています。

母国フランスでたくさん美しい村を見て来たマリさん。教授と



▲北浦和公園の噴水



調公園の骨董市▼



▲今年4月1日
バイーニュの町で

しての主な研究分野のひとつが“日本村落社会”でした。定年後は日本の地方をゆっくり旅して、素晴らしい風景、隠れた宝、伝統的な工芸品、郷土料理などに多く出会うことが、楽しみのひとつとなっているそうです。

マリさんの大好きなさいたまの場所は、ひとつ目は近代美術館のある“北浦和公園”です。「季節の移り変わりや音楽に合わせて躍動する噴水が楽しめ、とても穏やかな気持ちになれる公園です」。もうひとつは、毎月一回開催されている“調 (つきのみや) 公園の骨董市”です。日本文化に興味のあるマリさんにとっては「時代を超えて生き残ってきた貴重な品々を見たり、買ったりできるすばらしいところ」です。

ご主人は浦和出身で、マリさんは浦和に住んでから30年になります。「浦和は暮らしやすい町で、とても幸せに感じています」とのことでした。



多言語生活相談



国際交流センターでは、ボランティアスタッフによる外国人のための簡易生活相談を行っています。

対応可能言語は、英語、中国語、韓国語、朝鮮語です。

※各言語の相談時間は以下の通りです。

中国語
担当者 国際交流員
日時 毎週火曜日 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 15:00 (受付は14:00まで) ※祝日休

英語
担当者 国際交流員
日時 毎週水曜日 9:00 ~ 12:30 / 13:00 ~ 14:30 (受付は14:00まで) ※祝日休

韓国・朝鮮語
担当者 国際交流員
日時 毎週木曜日 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 15:00 (受付は14:00まで) ※祝日休

※上記の曜日、時間帯以外はすべて日本語での対応となります。

簡易生活相談 (基本的には日本語での対応となります)
担当者 市民ボランティア <日替わりで対応>
詳細は各窓口にお問い合わせください。



【生活相談窓口】

TEL 048-887-1506

FAX 048-887-1505



編集後記



新年度になり、各種講座やイベントは順調に開催しています。

編集委員も一人増え8人でのスタートとなりました。43号から続く、折句を2句ほど。

盛んなり
 良い案出し合う
 多士済々
 まだまだ足りぬ
 新人来たれ
 笹船の
 色濃き緑
 たゆたゆと
 曲がり損ねて
 しばし留まる

過去のIEC NEWSは

こちらからご覧いただけます。

<https://stib.jp/international/library/>



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルク上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://stib.jp/international/>

